

令和6年度 大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

所属名	大阪教育大学附属天王寺小学校
研究課題名	ICT主任によるカリキュラムマネジメント～授業改善と条件・環境整備に着目して～
研究課題概要	本研究は、ICT教育部主任という立場から、授業における効果的なICT活用を実現するためのカリキュラムマネジメントの推進を目的とした。実践を進めるにあたってカリキュラムマネジメント・モデル（田村 2022）を用いて、本校のICT教育の現状について分析を行った。分析した内容を踏まえて、 ① ICT機器を活用するための条件・環境整備 ② ICT活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した授業改善の2点に取り組むこととした。 ICT機器を活用するための条件・環境整備としては、ICT教育部で協働して情報モラル教育のカリキュラムを作成や、児童・教員・家庭を対象にした研修やルールの整備に取り組んだ。取り組むにあたって、大阪市教育センターへのヒアリングや満下（2020）の知見を参考とし、各学年の実態に合わせた情報モラル教育のカリキュラムを作成した。 また、ICT活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した授業改善としては、ICT教育部員を中心にICTを活用した授業実践の開発に取り組み、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進める上での具体的な方法を検討した。授業実践を進めるにあたっては、高橋（2022）の提案するクラウドを活用した複線型授業を参考に実践を行った。 本研究の成果と課題を明らかにするためにICT教育部の教員への半構造化インタビューを行った。その結果、ICT活用を校内で推進するためには、土台としての環境・条件整備の継続的な発展が必要であることが示唆された。カリキュラムマネジメント・モデル（田村2022）で示されている環境整備とは、ICT活用の場合「端末の管理やインターネット回線」といったハード面に目が行きがちであるが、「学校としての共通ルール作成」「情報モラル教育の系統化」「保護者への啓発」といったソフト面の整備が必要であることや、学校として統一した方向性をもって指導することのできる体制を整えることが必要である。また、ICT活用による授業改善の推進には、ICTを活用した授業の形態に捉われるのではなく、具体的な望ましい児童の姿を想定した上で指導者や学習者が学習の方向性を選択し実践に取り組むことが必要であることが示唆された。 以上から、カリキュラムマネジメントの視点を意識して教育活動を行うことは ICT活用推進においても効果的であることが明らかになった。一方で、情報モラルに関するカリキュラムは存在しているものの、ICT活用に関するカリキュラムが不足しているため、各学年の取り組みに軽重が生まれているという課題が明らかになった。
研究課題の構成員 （リーダーに※）	※附属天王寺小学校 加藤 翔 総合教育系 田村 知子

※様式は頁数が増えても差し支えありません。